

目次に5つのミッションが掲げられておりますが、各ミッションごとに当局の主な取組状況をご説明します。

1 ページ（平成28年度補助事業等の執行状況）

平成28年度の補助事業等の執行状況でございます。ご関心あれば、のちほど担当にお声かけいただければと思います。

2 ページ（公衆無線LANの整備促進）

公衆無線LANの整備でございます。総務省では、平成29年度予算の概算要求で、観光・防災拠点でのWi-Fi整備を要求しております。右下の枠内でございますが、38.9億円を要求しております。2020年までに観光・防災拠点での整備を加速しようというものでございます。当局で調べましたところ、北陸三県ではこれに該当する施設が1400程度でございます。うち、640がWi-Fiの整備がされており、残り760程度がいまだ未整備の状況にあります。予算成立後ではございますが、その整備を支援していきたいと考えております。

3 ページ（多言語音声翻訳システムの利活用実証の推進）

多言語音声翻訳システムの利活用でございます。永平寺町で年度いっぱいの計画で実証をしております。

4 ページ（まちづくりの推進（G空間×ICT））

まちづくりの推進でございます。大学・高専の学生を対象にICTと地理的情報を組み合わせたアイデアを競うコンクールを行い、入賞したものを対象にマッチングイベントを開催しています。写真は前回のマッチングイベントのものでございます。

5 ページ（災害時における迅速な放送の確保）

災害時における迅速な放送の確保でございます。当局も北陸三県の防災訓練に参加しておりますが、今年は、熊本の地震を受けまして、臨時の地上デジタルテレビジョン放送の中継局の開設と、臨時災害放送局の開局の訓練を行っております。

6 ページ（地域防災への関与）

防災訓練では、災害対策の各種通信機器の展示・操作の実演をしております。写真で、石川県での防災訓練に際して、谷本知事が御覧になられましたときの模様を紹介しております。

7、8 ページ（移動系、同報系デジタル防災行政無線の整備促進）

移動系デジタル防災行政無線でございます。電波政策の大きな流れといたしまして、電波の利活用が広がる中で、周波数の再編を進めるということがございます。防災行

政無線につきましても、周波数が混み合っておりまして、より狭い帯域でより多くの情報が送れる、アナログからデジタルへの移行を市町村に働きかけております。8 ページ、同報系デジタル防災行政無線も同様でございます。

9 ページ（IoTの研究開発促進に向けて）

北陸三県はものづくり（産業機械・デバイス）がさかんで、IoTへの関心も高いものがございます。もともと、円高を受けての競争力強化の観点から、稼働率の把握や故障の未然の防止ということで機械の動きのデータを取る、というようにIoT的な考えの素地があった、あるいは実際に取り組んでいた、ということかと理解しております。北陸情報通信協議会のイノベーション部会が6月に報告書を取りまとめております。当局ができることとしては、研究開発・技術開発のサポートであったり、機運づくりであったりという側面支援的なものにとどまるのかとも思いますが、前広に考えていきたいと思っております。

10 ページ（地域の研究開発支援）

研究開発につきましては、戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）というものがございまして、これにより支援を実施しております。SCOPE にはいくつか「型」がございます。北陸では、御覧のとおり「地域振興型」の研究開発が多いところでございます。

このSCOPE に、IoT、ビッグデータ、AIといったところに力点を置いた「ICT重点研究開発分野推進型」というタイプが新たにできるとのことで、こちらの利用も期待しているところでございます。

11 ページ（珠洲市における自動運転自動車の実証実験）

珠洲市で自動運転自動車の公道走行実証実験でございますが、これもSCOPEの「地域振興型研究開発」の支援も受けて進められております。

12 ページ（4K・8Kの普及促進と利活用拡大）

4K・8Kの普及促進でございます。条件不利地域でのケーブル光化促進を概算要求しているところでございますが、これも含めまして、今月中に放送関係者中心にお集まりいただきまして、今後の展開等議論する予定です。

13 ページ（登山者位置検知システムの実証試験）

富山県立山で150MHz帯を利用して山岳遭難者の位置を検知する実証実験を10月に行っております。それには石川県もオブザーバで参加されておられます。

14 ページ（AIS・国際VHFの普及促進）

運輸局、漁業調整事務所、海保と連携した取組でございますが、船舶自動識別装置の普及に取り組んでおります。最近、農林水産漁業分野にICTの利活用が始まりつつありますが、これもその大きな流れの中の1つと理解しております。

15ページ（ICT分野の人材育成・電波利用ニーズの発掘）

大学とのかかわりでございます。富山県立大にて来年1月まで、産学官連携講座が開講されています。このほかにも、大学に講師を派遣しているところでございます。

16ページ（安心・安全なネット利用の促進（情報セキュリティの確保））

北陸ではIoTに並んでセキュリティへの関心が非常に高うございます。先月、能美のいしかわサイエンスパーク内にあります、StarBED（多数の機器とネットワークを配置、実環境を再現して、そこで実環境同様の各種の実験を行えるテストベッド）を利用して、実践的なサイバー防御演習が行われましたが、30市町村、67名が参加されておられます。

17ページ（安心・安全なネット利用の促進（青少年のリテラシー向上））

青少年のリテラシー向上でございます。いろいろと掲げておりますが、関係者の御協力をいただきながら、地道にコツコツやっております。2つめの、e-ネットキャラバンといいますのは、インターネットの安心・安全な利用のための「出前講座」でございます。携帯電話事業者や販売店の方々が講師となって、出向いて説明します。当局からも講師を派遣しております。

18ページ（電波の利用環境・安全性の周知）

私ごとですが、武蔵が辻の「かなざわはこまち」にある日赤の献血センターで献血をしております。手首に何かつけられまして脈拍などをとっているのかと思いますが、そのデータは無線LANで送られています。ことほどさように、医療現場での無線利用が、非常に進んでおりますが、その安全性につきまして、医療従事者、事務長さん方の関心も非常に高いところでございます。各県で説明会を開催しており、先月、福井で開催、富山は来年2月に開催します。

19ページ（重要無線通信妨害／不法・違反無線局対策）

これからIoTやAIがふんだんに利活用されるようになると思われませんが、人と機械、機械同士が通信をするのが当たり前になるということでございます。いたるところで、電波が利用されることとなるわけでございますが、強力な電波などが出されますと、おもわぬ事故を招くとも限りません。そういった時代への地ならしという意味合いもありますが、電波の監視管理活動に力をいれているところでございます。

あと、一点、ここには載っておりませんが、年明けに金沢国税局様とコラボしたイベントを企画しております。

以上でございます。